

第121回 幻住庵俳句コンクール

第121回 幻住庵俳句コンクール

25	24	23	22	21	20	19	18	17	16	15	14	13	12	11	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1	番号	住所・氏名
歓声の秋空に舞う競技場	みつ豆をひとくち食べて昭和おもしろい	黄西瓜若かりし日の短編集	夕風に鳴りひびきけり風鈴が	秋の月三代句碑に師をしのび	この径に今年も会ふや彼岸花	富士裾野忍野に秋の清水湧く	十三夜昭和の歌の艶めきて	高階のペランダに聞く体育祭	文化祭友の笑顔に会ひに行く	長袖の出番ようやく陽の柔ら	日本ブーム富士登山の列をなし	新幹線六十年とや秋の空	今生を抜けて空蝉カラカラと	地震あとに大雨襲ひ夏の果	花見月野先借りて遠慮がち	老夫婦秋の始まり床風にて	鮎伏す瀬手綱さばきや輪廻の手	爺ちゃんが秋乃魚焼いたら児も食べる	誰かしら人美しくやマスク越し	パスを待つ整列児童に銀杏舞う	白に白程よく夏越納めけり	新米や赤ひも飾り朝の鳩	秋刀魚焼く煙の中に妻もあて	五山の火先祖の供養手を合わし	句	宇治市小倉町 伊豆 益一
栗東市中沢二 葛城 巖									高槻市摂津市 河野 善江																	
50	49	48	47	46	45	44	43	42	41	40	39	38	37	36	35	34	33	32	31	30	29	28	27	26	番号	住所・氏名
隣組うすれ桜花侘し	稲の花丹波盆地に風渡る	虫すだくどこかにいくさある地球	看とりあて同じ空気の高き夜	串うて夜店の匂ふ裏通り	城容ちあらはれ望の月明り	蓮酒の茎つたひくる間合かな	遠くより音の近づくばったんこ	草の花人より離れ歩く性	地震野分人はやさしく強くあり	川添いの紫薫る石山寺	よみがえる母と来寺記憶かな	日脚伸び子らと見上ぐるくじら雲	大きめのパンを類はる卒業子	盆踊りオーブニングの太鼓連	火の鳥のはばたくドローン花火かな	吹かれあふるもの空蝉もそのひとつ	時雨忌や幻住庵に遠く住む	我が前を二尾なる蜻蛉睡み合ひ	降水帯飛び交うつばめいとおしく	おみなえし傘舞すぎなお未知の日々	故郷の夜を深める秋の雨	近江富士静寂きわむ萩と月	山門は自由解放秋の蝶	空気澄み秋深まりてコキア咲く	句	高槻市高垣町 四方 よね子
										明石市鷹匠町 中尾 朝子			鹿児島県肝風郡 青野 浩哉		鹿児島市紫原 青野 優子		鹿児島市西伊敷 上 レイ子		鹿児島市中山町 塩田 梨津子			栗東市中沢二 葛城 巖				